

今日はシュロの日曜日である(Psalm Sunday)。エルサレムへ勝利の入場を再現してみる。旗のような青葉を振って、イエスの教えや説教、癒しをほめたたえる。

今日、私たちは（教会周辺で）象徴的な行進をする。磔刑前の日曜日に、イエスの弟子たちがエルサレムへ入場したように、私たちは歩む。

今日、私たちはその象徴のなかに踏み入れる。イエスは先に弟子たちを使いに出され、ロバを得ることから始められる。それは私たちの行進に先立って、スティーブとバジルを使いに出し、長くゆったりしたリムジンを盗むような事である。

そしてその大切な事は、少しのあいだ一般的な所有権が適用されない事である。主イエス・キリストの勅令は（命令）何よりも偉大である。

イエスはまだ調教されていないロバに乗られ、進んで行かれる。（*福音書英語訳はcolt、つまり子馬となっているが、日本語訳はロバとなっているので、ロバを採用する）馬に詳しい人々は、乗馬には数年の訓練を要し、馬を乗馬用に調教するには忍耐が必要とされるのを知っている。それはマリさんをロデオ場に送り出し、飛び跳ねる野生馬に乗せるようなものである。しかし気付いてほしい。この時は、行動と統制の一般的ルールは適用されない。主イエス・キリストの勅令は何よりも偉大である。

さて行進である。上着が道に敷かれ、弟子たちは喜びにあふれた大声で神を賛美する。

ローマの歴史に詳しい人々は、この勝利の凱旋は幻想と嘲弄であるのを知っている。

これは主教をMain St.に送り出し、すべての交通を遮断し、すべての人々が喜びにあふれ、^{まこと}真の信仰への望みを喝采するようなものである。この時は、権力者の一般的ルールは適用されない。主イエス・キリストの勅令は何よりも偉大である。

今日から、教会が聖なる期間として備えている週に足を踏み入れる。

象徴的で神聖な期間であるこの週を私たちは歩む。私たちの時代のどんな勅令よりも、主イエス・キリストの勅令は何よりも偉大である、このような週を私たちは生きる。

この金曜日にはキリストの受難物語を聞くだろう。“キリストの受難”とはイエスの死である。このタイトルの“受難”とは、ラテン語の“苦しみ”から由来している。

金曜日に十字架の道行きの留の（終末）^{とめ}前に立つ。不快な苦しみと死に関わる週である。

聖金曜日（受苦日）に、聖堂のすべての装飾を取り除き、十字架の道行きの結末を迎える。

教会を空にして、死につながる沈黙の静けさのなかで、私たちは教会を離れる。

本日ここで（この一週間）、私たちは象徴の中に足を踏み入れる。私の勧めである。すべての物語のすべてのルールに気付いてほしい。

ある聖金曜日（受苦日）礼拝では、教会信徒が大声で叫ぶように奨励される。

「十字架につけろ、十字架につけろ」、群衆がポンテオ・ピラトに叫んだように。

ある聖木曜日礼拝では、人々はお互いの足を洗う。

象徴的に踏み入れたことから、弟子とイエスのルールへと方向転換をする。

今週の私たち自身の信仰を想像してみる。人間経験の豊富さに抱かれよう。

ある時は、私たちは物語の信仰に厚いヒーローである。

ある時は、私たちは悪人であり、犯罪者であり、犯人である。私たちは間違いを犯す。

ある時は、私たちの相違が世界の悪魔となる。今週は、私たちはすべてになる。

今週は、マリアのような使徒であり、ユダのような裏切り者になる。

イエスを十字架につけろと叫んだ群衆の一人であり、何もしなかった傍観者である。

今週は象徴的であるが、すべての人的観点から、すべての物語を読んで行く。

私たちはすべてになる。

来週は、今のすべてのあなた自身、かつてのすべてのあなた自身、

そして未来のあなた自身になる。

あなた方は復活させられ、許されているのを知る。

なぜなら、あなた方が行ったどんなことも、あるいは行っているどんなことも、

主イエス・キリストの勅令が何よりも偉大であるからだ。

イエスは愛を選ばれる。

（文責長澤猛）